

COVID-19 ワクチン接種を考慮する妊婦さんならびに妊娠を希望する方へ

令和3年（2021）1月27日

改訂版 令和3年2月18日

改訂第3版 令和3年 5月12日

改訂第4版 令和3年 6月17日

改訂第5版 令和3年 8月14日

令和3年8月14日 妊産婦のみなさまへ

日本産科婦人科学会 木村正

日本産婦人科医会 木下勝之

日本産婦人科感染症学会 山田秀人

—新型コロナウイルス（メッセンジャーRNA）ワクチンについて（第2報）—

昨今、新型コロナウイルスが若年者を中心に急速に感染拡大し、多くの妊婦さんの感染も確認されています。一方で、新型コロナウイルス（メッセンジャーRNA）ワクチンは、高齢者に限らず基礎疾患を持つ者、それ以外の者へと順次拡大されております。

① アメリカ疾病対策センター（CDC）は妊婦さんへのワクチン接種を強く推奨する声明を出しています。わが国においても、妊婦さんは時期を問わずワクチンを接種することをお勧めします。

② 妊婦が感染する場合の約8割は、夫やパートナーからの感染です。そこで、妊婦の夫またはパートナーの方は、ワクチンを接種することをお願いします。

なお、このお知らせは、最新の知見に基づいて6月17日のお知らせを更新するものです。

1. 妊娠中、特に妊娠後期に新型コロナウイルスに感染すると、重症化しやすいとされています。
2. 全国的に感染地域が拡大し、感染の多い地域では感染拡大が過去にない拡大となっています。そのような地域にお住まいの方や、糖尿病、高血圧、気管支喘息などの基礎疾患を合併している方は、ぜひ接種をご検討ください。
3. 副反応に関し、妊婦さんと一般の人に差はありませんが、発熱した場合には早めに解熱剤を服用するようにしてください。アセトアミノフェンは内服していただいて問題ありませんので頭痛がある場合も内服してください。
4. 副反応の有無にかかわらず、妊娠の異常（流産、早産、その他）の頻度はワクチンを打たなかった妊婦と同じであると報告されています。

なお、接種を希望される場合は、以下の点にご留意ください。

- 新型コロナワクチン接種の予診票には、「現在妊娠している可能性はありますか。または授乳中ですか。」という質問がありますので、「はい」にチェックし、あらかじめ健診先の医師に接種の相談をしておきましょう。接種してよいと言われていれば、その旨を接種会場の問診医に伝えて、接種を受けてください。
- 妊娠中の方は、里帰り先の住民票と異なる居住地の産科医療施設で接種を受ける場合「住所地外接種届」の提出は不要です（接種場所により届け出が必要になることもあるので、里帰り先の行政機関にお問い合わせください）。
- 予定された2回のワクチンを接種しても、これまでと同様に感染予防策（適切なマスク使用、手洗い、人込みを避けるなど）は続けてください

以上が、産婦人科関連各学会の声明です。  
よって、当クリニックの方針は下記の通りです。

前提条件として、ワクチン接種の有益性と副反応の可能性を良く理解してください。

- 1 妊娠中の方へのワクチン接種を積極的に推奨いたします。  
妊娠初期も積極的に推奨いたします。
- 2 妊娠を希望する女性に対しても、積極的に推奨します。  
不妊治療を中断する必要はありません。
- 3 授乳中もワクチン接種を積極的に推奨いたします。
- 4 ご家族も積極的にワクチン接種を受けてください。
- 5 副反応（微熱、頭痛、接種部位の痛み、等）に対して、  
アセトアミノフェン、イブプロフェン、等、使用できます。  
ただし、妊娠後期（28週以降）は、  
アセトアミノフェン（カロナール）のみ投与可能となります。

令和3年（2021）8月14日

産科婦人科茅原クリニック 院長 茅原 保（拝）